

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
 コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 富士本 淳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 麻野 憲志

TEL 03-5530-3055

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	47,028	17.3	7,815	36.7	8,622	46.7	1,844	42.1
26年3月期第3四半期	40,083	△37.9	5,718	△75.5	5,878	△80.2	1,297	△92.2

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 4,445百万円 (△67.8%) 26年3月期第3四半期 13,816百万円 (△13.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	25.14	—
26年3月期第3四半期	17.69	17.67

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	225,031	196,924	86.9	2,663.73
26年3月期	248,833	194,314	77.5	2,629.13

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 195,475百万円 26年3月期 192,935百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

平成27年2月13日開催の取締役会において、平成27年3月5日を臨時の基準日とする1株当たり30円の剰余金の配当(特別配当)を決議しております。

詳細は、平成27年2月13日付『剰余金の配当(特別配当)に関するお知らせ』をご覧ください。

なお、期末の配当予想については、未定としております。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	97,000	11.8	21,000	△14.8	20,000	△15.3	9,000	△4.4	122.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社ピートウピーエー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	80,195,000 株	26年3月期	80,195,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	6,811,154 株	26年3月期	6,811,154 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	73,383,846 株	26年3月期3Q	73,383,846 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1)経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8
(4) 追加情報	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成27年3月期 第3四半期累計	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
個別 (百万円)	46,507	9,357	14,734	7,755
連結 (百万円)	47,028	7,815	8,622	1,844

当第3四半期連結累計期間における売上高は47,028百万円（前年同期比 17.3%増）、営業利益は7,815百万円（前年同期比 36.7%増）、経常利益は8,622百万円（前年同期比 46.7%増）、四半期純利益は1,844百万円（前年同期比 42.1%増）となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りです。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①パチスロ・パチンコ事業

当第3四半期連結累計期間においては、第2四半期に全国ロケテストを実施したパチスロ機『沖ドキ!』が高い評価をいただいたため、正式販売を行いました。稼動も高く、さらなる追加受注の声もいただいております。

また、前期に市場投入した、パチスロ機『アナザーゴッドハーデス-奪われたZEUSver.-』が全国のホールで高い稼動を維持していることから、新パネル「NO MORE DOG ver.」を発表し、特別価格で販売する応援キャンペーンを実施いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間においては、パチスロ機5タイトルの市場投入を行い、導入台数は約112,500台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は44,893百万円（前年同期比 17.0%増）、営業利益は17,001百万円（前年同期比 17.3%増）となりました。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、パチスロ機『バジリスク～甲賀忍法帖～絆』及び『やじきた道中記乙』のシミュレーターアプリの配信をドコモスマホにて開始しました。また、パチスロ機『ミリオンゴッド』及び『緑ドンVIVA! 情熱南米編』、『バジリスク～甲賀忍法帖～II』のシミュレーターアプリの配信を777TOWN.netにて開始しました。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社における放送事業においては、スカパー!自体の加入者数が減少傾向にある中、売上高はほぼ一定の水準を保っております。また、サイマル放送事業においては、J:COMの加入者数が好調に推移していることなどにより、売上高は前年同期比約46%増となりました。コンテンツ配信事業においては、配信先の動画サイトの売上縮小に伴い、同事業の売上高は若干減少しております。その他、10月には、より市場とリンクしたタイムリーかつユーザー視点に立った大規模な番組編成の改編を行いました。それらの結果、同社の営業利益は、前年同期比約58%増となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他売上高は2,159百万円（前年同期比 23.5%増）、営業損失は2,471百万円（前年同期 営業損失1,979百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は57,278百万円となり、前連結会計年度末に比べ40,635百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が30,066百万円減少したこと及び受取手形及び売掛金が15,765百万円減少したことによるものであります。固定資産は167,752百万円となり、前連結会計年度末に比べ16,832百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が15,536百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、225,031百万円となり、前連結会計年度末に比べ23,802百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は25,414百万円となり、前連結会計年度末に比べ27,109百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が10,842百万円減少したこと及び短期借入金7,475百万円減少したことによるものであります。固定負債は2,692百万円となり、前連結会計年度末に比べ698百万円増加いたしました。これは主にその他固定負債が1,194百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、28,106百万円となり、前連結会計年度末に比べ26,411百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は196,924百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,609百万円増加いたしました。これは主に為替換算調整勘定が2,552百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は86.9%（前連結会計年度末は77.5%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

① パチスロ・パチンコ事業

第4四半期においては、当社グループとしては約4年ぶりの発売となるパチンコ機の新タイトル『CRバットマン 灼熱のゴッサムシティ』と、当社グループの株式会社アクロスがパチスロ機の老舗メーカーである岡崎産業社とコラボレーションしたパチスロ機『スーパージャックポット』を、1月に市場投入いたしました。

2月下旬には、パチスロ機『ハナビ』の市場投入を予定しております。『ハナビ』は、“リバイバル”をテーマとして“復刻機”や“技術介入機”など、パチスロの原点に立ち返った機種を開発するプロジェクト「A PROJECT」の第3弾です。

また、大ヒットタイトルであるミリオンゴッドシリーズの最新作、パチスロ機『ミリオンゴッド-神々の凱旋-』の販売活動を行っており、3月より順次納品を開始し、4月上旬より全国のホールにてユーザーの皆様にお楽しみいただける予定です。歴代のミリオンゴッドシリーズはいずれのタイトルも長期にわたり高い水準の稼働を記録したこともあり、『ミリオンゴッド-神々の凱旋-』も高い評価と数多くの受注を頂き、4月からのホールの看板機種として期待されています。

② その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き、ユーザーの皆さまに高品質なシミュレーターアプリを提供できるよう研究開発を進めてまいります。また、会員制モバイルサイト「ユニバ王国」においては、サイトの充実を図るとともにアプリコンテンツも続々投入予定です。今後もユーザーの皆さまからの支持が得られるようなサイト運営を行ってまいります。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社は、1月に新番組をリリースし、2月にも新番組をリリース予定です。また、3月には「パチンコ★パチスロTV!」をパソコンやスマートフォンで視聴できる新サービスの実施を予定しております。

当社グループがフィリピンで開発しているカジノリゾートプロジェクト「マニラベイリゾート」の建設工事の進捗としては、躯体の最高部が12階に達し、工事は滞りなく進んでおります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	46,781	16,714
受取手形及び売掛金	19,869	4,103
有価証券	138	144
商品及び製品	688	683
仕掛品	7,795	10,344
原材料及び貯蔵品	17,501	20,167
繰延税金資産	990	329
その他	4,170	4,796
貸倒引当金	△23	△5
流動資産合計	97,913	57,278
固定資産		
有形固定資産		
土地	39,834	40,830
建設仮勘定	30,378	45,291
その他	19,609	19,236
有形固定資産合計	89,822	105,358
無形固定資産		
その他	1,515	1,720
無形固定資産合計	1,515	1,720
投資その他の資産		
投資有価証券	49,131	50,545
長期未収入金	1,447	1,545
その他	12,122	11,743
貸倒引当金	△3,119	△3,160
投資その他の資産合計	59,582	60,674
固定資産合計	150,920	167,752
資産合計	248,833	225,031

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,128	7,286
短期借入金	16,051	8,575
1年内返済予定の長期借入金	344	—
1年内償還予定の社債	1,640	500
未払法人税等	7,793	147
賞与引当金	233	72
その他	8,333	8,833
流動負債合計	52,524	25,414
固定負債		
社債	500	—
資産除去債務	371	375
その他	1,122	2,316
固定負債合計	1,994	2,692
負債合計	54,518	28,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	195,701	195,711
自己株式	△14,296	△14,296
株主資本合計	192,355	192,365
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51	28
為替換算調整勘定	528	3,080
その他の包括利益累計額合計	580	3,109
新株予約権	22	21
少数株主持分	1,356	1,427
純資産合計	194,314	196,924
負債純資産合計	248,833	225,031

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	40,083	47,028
売上原価	17,946	20,135
売上総利益	22,136	26,892
販売費及び一般管理費	16,418	19,077
営業利益	5,718	7,815
営業外収益		
受取利息	316	76
受取配当金	64	7
為替差益	48	1,182
その他	42	123
営業外収益合計	472	1,390
営業外費用		
支払利息	259	320
支払手数料	48	34
売上割引	—	222
その他	4	6
営業外費用合計	312	583
経常利益	5,878	8,622
特別利益		
投資有価証券売却益	628	—
関係会社株式売却益	36	—
新株予約権戻入益	0	22
その他	3	5
特別利益合計	667	27
特別損失		
関係会社整理損	27	—
関係会社事業損失	—	1,238
その他事業損失	—	557
固定資産除却損	2	1
訴訟関連損失	129	—
特別損失合計	160	1,797
税金等調整前四半期純利益	6,385	6,852
法人税、住民税及び事業税	3,744	3,548
法人税等調整額	1,512	1,389
法人税等合計	5,257	4,937
少数株主損益調整前四半期純利益	1,128	1,915
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△169	70
四半期純利益	1,297	1,844

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,128	1,915
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	99	△22
為替換算調整勘定	12,588	2,552
その他の包括利益合計	12,688	2,529
四半期包括利益	13,816	4,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,986	4,374
少数株主に係る四半期包括利益	△169	70

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

重要な資金の借入

当社は、平成27年2月5日付で借入を実行しております。

(1) 理由

短期運転資金の確保

(2) 借入先

DEUTSCHE BANK AG, TOKYO BRANCH

(3) 借入金額

170,000千US\$

(4) 借入期間

平成27年2月5日から平成27年4月30日

(4) 追加情報

(訴訟)

Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN, 以下「ウィン・リゾート社」という) 取締役会は、2012年2月18日、当社及び当社連結子会社であるAruze USA Inc. をウィン・リゾート社の株主として不適任であるとし、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾート社株式(24,549,222株、発行済株式に対する持分割合: 当時19.66%)を、ウィン・リゾート社の定款の規定に基づき償還することに賛成しました(下記のとおり、Aruze USA Inc. は、当該規定及び当該行為が無効であることの宣言的救済を裁判所に求めています)。ウィン・リゾート社は、当該償還の対価として、Aruze USA Inc. に対し、同日のウィン・リゾート社株式時価の約30%の割引価格で10年満期の長期受取手形を発行しました。また、ウィン・リゾート社は翌19日、当社及びAruze USA Inc. に対して、当社取締役会長岡田和生による忠実義務違反を幫助したことによる損害賠償及び上記株式償還の決定について宣言的救済を求めた訴訟を提起しております。

それを受け、当社及びAruze USA Inc. は、2012年3月12日に、ウィン・リゾート社への投資を保全するために必要な法的措置の一環として反訴を提起し、ウィン・リゾート社による不適切な株式償還に対する差止め命令及び裁判所の宣言的救済を求めるとともに、不適切な株式償還及び詐欺的行為に関与したスティーブ・ウィン氏、並びにウィン・リゾート社の執行役員及び各取締役に対し、損害賠償等を求めています。

当該反訴手続は、今後ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続を経た後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るという過程となるため、最終的な結論が出るまで相当期間がかかることが予想されます。さらに、ディスカバリーは、2013年5月2日から2014年5月2日までの間、裁判所の命令により大部分停止されていました。2014年5月2日、裁判所は、合衆国政府によるディスカバリー停止の再延長申立を退ける一方、追加のディスカバリーについては、合衆国政府が、継続中の捜査に支障を及ぼすとの理由で異議を申し立てられるよう、事前に合衆国政府に見せるよう命じました。従いまして、現時点では実体的判断の帰趨及び時期のいずれについても見通しがつかない状況であり、当社においては予測予断を持って判断を行わず、判決が出た時点で、即時にそれに従って適正な処理と開示を行うことが妥当と判断しております(なお、判決に対しては上訴がなされる可能性があります)。このため、本反訴請求の結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、前々連結会計年度末よりウィン・リゾート社株式を取得原価で評価しております。

また、ウィン・リゾート社が長期受取手形に対する受取利息として、2013年2月14日付(現地時間)で38,728,852.63ドル、2014年2月13日付(現地時間)で38,728,852.63ドルを小切手でAruze USA Inc. に発行しましたが、2014年3月10日に裁判所から、裁判所の事務官預かりとされる資金に係る約定及び命令が発行され、今後裁判所からの新たな命令が発せられるまで、長期受取手形に対する利息、元本の支払いに係る小切手のすべてを裁判所の事務官宛てにて、同事務官の信託口座への預け入れ用として発行することとなりました。係る事実を鑑みて、請求権の原則に基づいてAruze USA Inc. に帰属しないと判断されることから当該小切手の受取利息を会計上も税務上も認識する必要はないこととなる可能性が高いと判断され、当社連結財務諸表には利息小切手発行に係る事実を反映させておりません。